

価値創造ストーリー概要



「社会的価値」の拡大

お客さまの課題解決の積み重ねによって
「環境・社会課題」を実現

営業基盤の強化等



「経済的価値」の拡大

付加価値提供の対価を得ることによって自社の
「財務的課題」を実現

経営資本の強化・戦略的投資等



第四北越フィナンシャルグループのあゆみ

1873年の第四国立銀行創立以来、時代とともに変化するお客さまや社会の課題をいち早く的確に捉え、解決に向けた金融・情報サービスを提供し続けることでステークホルダーの皆さまからの信頼を積み重ねながら、持続的に成長し、企業価値を高めてまいりました。



第一次中期経営計画

(2018－2020年度)
合併シナジー効果の
最大発揮のための土台構築

第二次中期経営計画

(2021－2023年度)
3大シナジーの発揮
(合併・グループ・TSUBASA)

第三次中期経営計画

(2024－2026年度)
グループ経営の深化・探索

新潟県内の動き

1869年 新潟港開港
(開港5港の一つ)
1871年 廃藩置県による
新潟県の誕生

1876年 長生橋架橋 (長岡市)
1880年 新潟大火
1886年 万代橋架橋 (新潟市)

1945年 長岡空襲
1964年 新潟国体
新潟地震

1973年 新潟空港の国際空港化
1982年 上越新幹線開業
1988年 北陸自動車道
全線開通

1997年 ほくほく線
磐越自動車道
全線開通
2004年 7.13水害
中越地震

2007年 中越沖地震
新潟市政令
指定都市移行
2009年 新潟国体

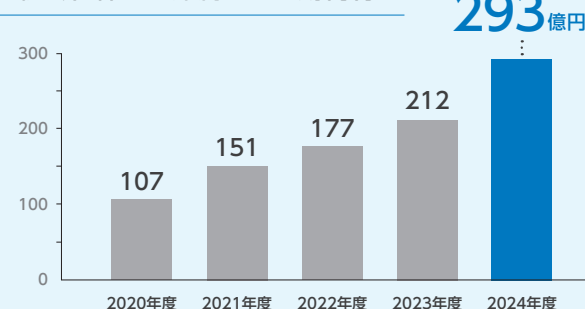
2011年 東日本大震災
2018年 県内で史上初の
気温40度超え
2020年 新型コロナウイルス感染症
全国で緊急事態宣言発令

2024年 能登半島地震
「佐渡島の金山」がユネスコ
世界文化遺産に登録
「伝統的酒造り」がユネスコ
無形文化遺産に登録

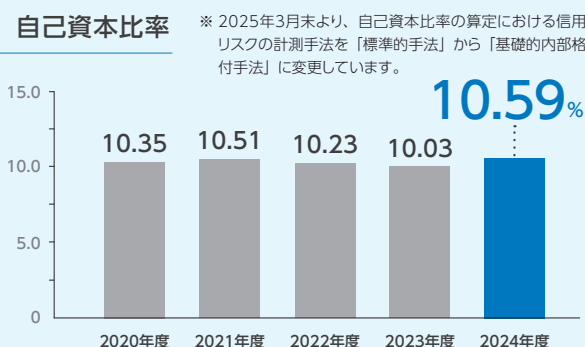
財務ハイライト

第四北越FG（連結）

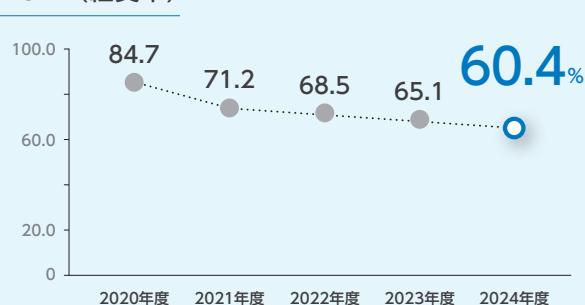
親会社株主に帰属する当期純利益



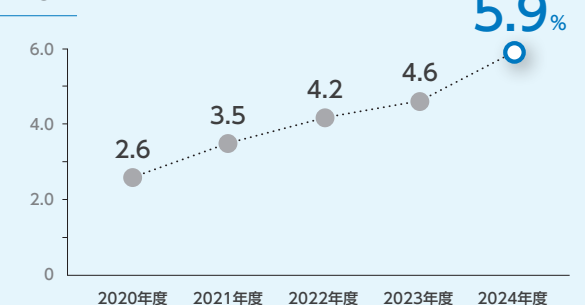
自己資本比率



OHR(経費率)

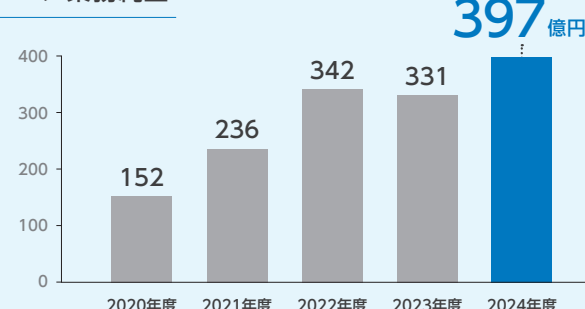


ROE



第四北越銀行（単体）

コア業務純益



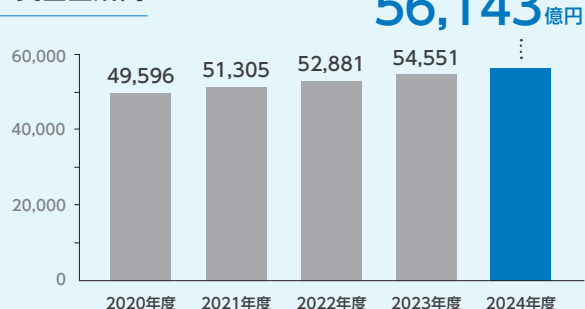
当期純利益



預金等残高



貸出金残高

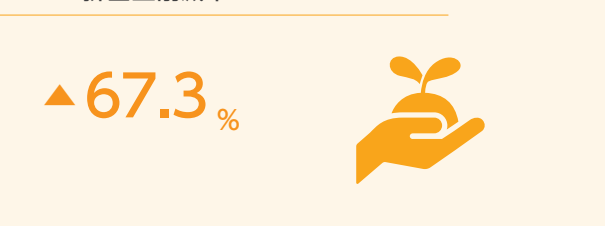


非財務ハイライト（2024年度）

環境

- Environment

CO2排出量削減率（2013年度比、速報値）



サステナブルファイナンス実行額（2021年度～、累計）



社会

- Social

従業員エンゲージメント総合スコア



金融教育活動の延べ参加者数（2013年～）



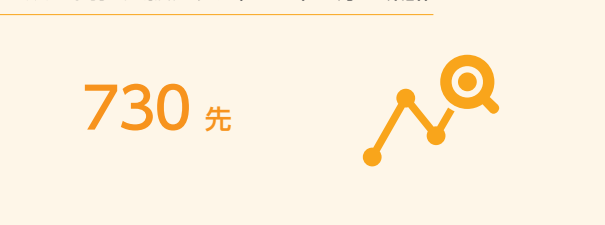
創業・事業承継支援件数



DX・生産性向上支援件数



販路開拓支援先数（2019年10月～、累計）



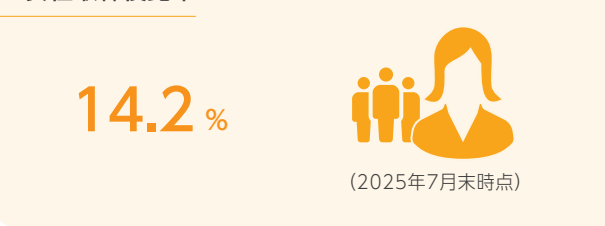
人材ソリューション支援件数



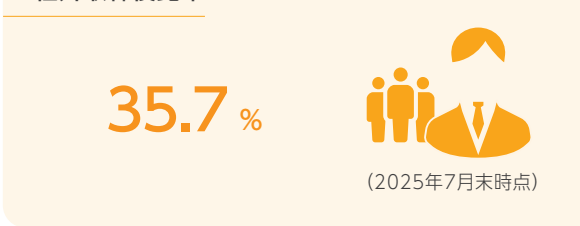
ガバナンス

- Governance

女性取締役比率



社外取締役比率



事業エリア

当社は、新潟県を主要な事業基盤として活動しています。新潟県は、本州の日本海側に位置し、地理や気象条件により、古くから農業が盛んなほか、米などの豊富な農水産資源を活用した米菓や水産加工品などの食料品製造業が広く認知されています。

また、充実した交通インフラや金物の町として知られる三条市と燕市の県央エリア、世界文化遺産に登録された「佐渡島の金山」、花火大会、温泉地といった観光資源を有するなど、高いポテンシャルを持った地域です。

一方、人口減少率は全国平均を上回るスピードで進行しており、総人口は、1997年をピークに27年連続で減少しています。

当社は、こうした新潟県の特徴や課題を踏まえ、経営理念に基づき、グループシナジーを発揮しながら新たな価値を創造し、さまざまなサービスを提供することで地域社会の発展に貢献し続けていきます。

新潟県の主要データ



出所：新潟県ホームページ「データでみる新潟県～指標ハンドブック（令和6年度）」

産業



自然資本



自然公園面積



出所：新潟県ホームページ「新潟県あれこれ全国ベスト5」

交通インフラ



新潟県のポテンシャル

I 自然資源を活かした産業力

米の産出額が全国1位であることに加え、米菓や日本酒、水産加工品などの食料品製造業も全国トップクラスの実力を有しています。2024年12月には「伝統的酒造り」がユネスコ無形文化遺産に登録されており、日本有数の酒どころである新潟県では、さらなる産業の振興に向けて期待が高まっています。また、信濃川・阿賀野川という2つの大河をはじめとする多くの川や山々が生み出す豊かな資源を有し、日本有数の豪雪地としてスキー場数は全国5位（22カ所、令和3年）であるなど、豊富な資源を活用した産業も盛んです。



I 妙高高原エリアでの大規模リゾート開発

妙高高原エリアでは、現在、大規模なリゾート開発が進められています。当社グループでは、事業者、行政、外部アライアンス等と連携しながら、地域経済の活性化に向けて、本プロジェクトの支援にグループ一体で積極的に取り組んでいます。

I 豊富な観光資源

新潟県内には、宿泊施設のある温泉地の数が137カ所と全国3位（令和6年）であるほか、長岡・片貝・柏崎で開催される花火大会は「越後三大花火」と言われ、このうち長岡花火は2日間で100万人以上が来場する有名な花火大会です。



I 「佐渡島の金山」

佐渡は、毎年約50万人の観光客が訪れる日本最大の離島で、「佐渡島の金山」は2024年7月にユネスコ世界文化遺産に登録されました。当社では、佐渡市や佐渡島内の事業者等と連携し、佐渡の観光振興につながる「佐渡島の金山」を核とした新たな観光地の創生や、観光客にとって満足度の高いサービスを提供する宿泊施設の開発、それらと相乗効果のあるさまざまなイベント開発など、佐渡を面的に支援し、佐渡の魅力を一層高めるプロジェクトを展開しています。

I 物流エネルギー拠点

新潟県は、各方面に伸びる高速道路や首都圏を結ぶ上越新幹線、敦賀につながる北陸新幹線など関東・関西・東北など各方面へのアクセスに優れています。また、国際拠点港湾である新潟港をはじめとする計10港を有する日本の重要な海運拠点となっています。新潟港と直江津港は日本海側拠点港に指定されるなどエネルギー拠点としても重要な役割を果たしています。



出所：新潟県ホームページ「新潟県あれこれ全国ベスト5」

新潟県の課題

人口減少	少子高齢化	生産性向上
DX	観光振興	脱炭素化
医療・介護	教育	自然災害対策

第四北越FGの取り組み

価値創造ストーリー	P.17～
目指す姿に向けた成長戦略	P.29～
サステナビリティ経営	P.51～

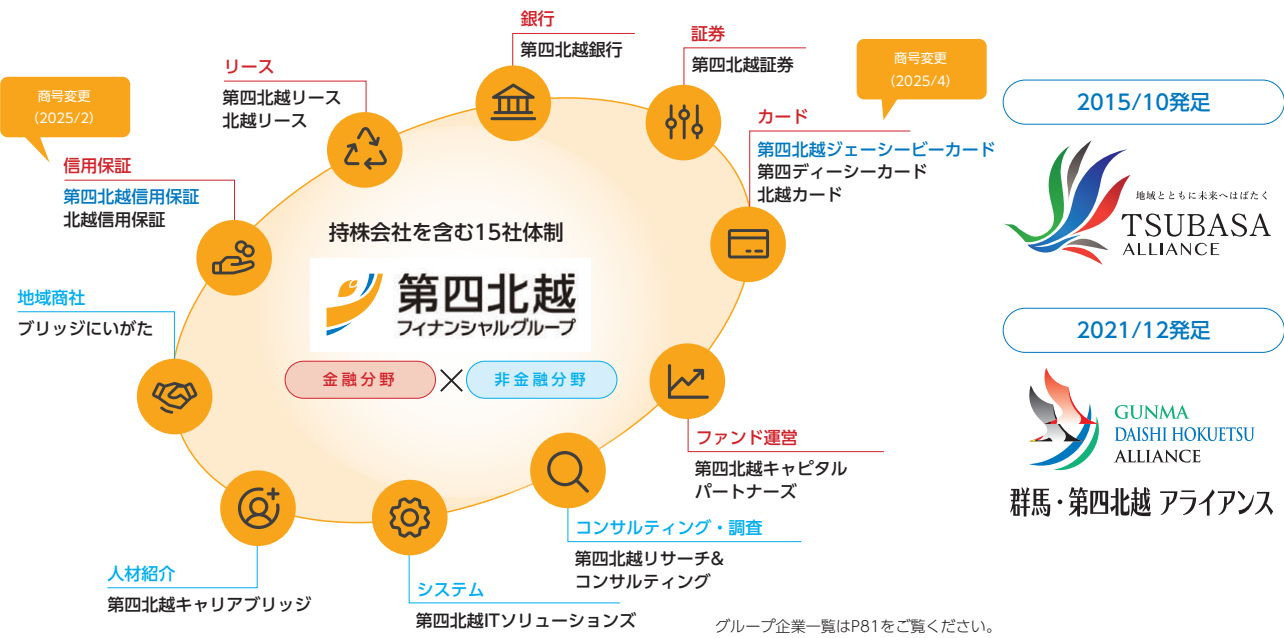
地域とともに持続的に成長する好循環の実現

第四北越フィナンシャルグループの強み

グループ総合力・アライアンス 知的資本

当社グループは、当社ならびに第四北越銀行をはじめとした連結子会社14社、合計15社で構成され、銀行業務を中心に、リース業務、証券業務、クレジットカード業務、システム関連業務、人材紹介業務などを通じて、地域のお客さまに幅広い金融商品・サービスを提供しています。グループ各社の機能を活用し、地域・お客さまの多様なニーズに対応し、グループ各社が相互に連携し合い最適なソリューションを提供する「複線型」での連携を強化しています。

また、第四北越銀行を含む地方銀行10行による広域連携の枠組みである「TSUBASAアライアンス」や、第四北越銀行と群馬銀行との連携協定である「群馬・第四北越アライアンス」での連携を通じて、新たな価値の創造に取り組んでいます。



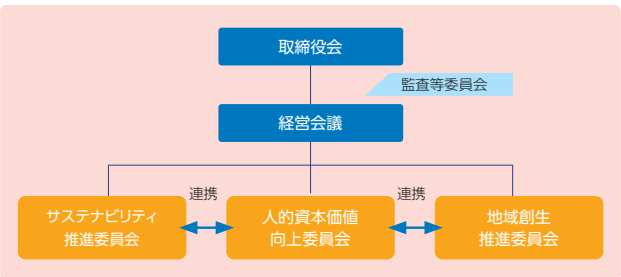
多様で豊富な人財 人的資本

当社グループでは、多様化・高度化する地域やお客さまのニーズに対応できる専門性の高い実践力のある人財の育成に取り組んでいます。金融に関する専門性の習得にとどまらず、地域の重要な課題であるDX、SXに関するリテラシーの習得など、従業員の能力向上に幅広く取り組んでいます。また、さまざまな専門スキルを持ったキャリア人財の採用や専門性を活かしたグループ内連携を通じて、人財基盤の強化を図っています。

また、当社グループでは、2024年7月に社長を委員長とする「人的資本価値向上委員会」を新設し、グループ全体で人的資本価値を高めていくための各種施策を組織横断的に審議し実行する態勢としています。

なお、当社では2024年12月に制定した「人的資本経営方針」において、人的資本価値向上に資する投資を年5%以上増加させる方針を明確化し、多様な人財のさらなる成長を積極的に後押ししています。(詳細P43)

●人的資本価値向上委員会の新設



●専門資格等保有者数（第四北越FG）

専門資格	2024 年度
FP1 級	205
中小企業診断士	52
証券アナリスト	52
情報セキュリティマネジメント	165
IT コーディネータ	34
IT パスポート	1,323
脱炭素アドバイザーベーシック*	1,456
TOEIC800 点以上	26

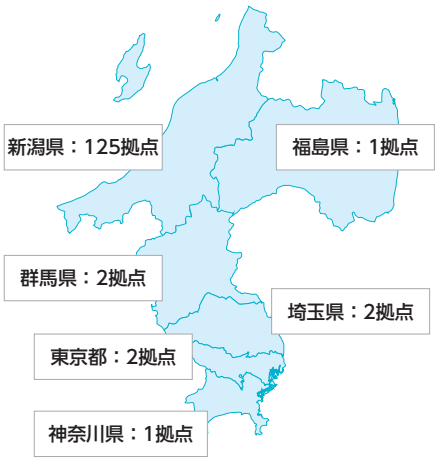
※複数資格保有者は1人として集計しています。

広域ネットワーク・地域からの信頼 社会関係資本

当社グループは、新潟県を中心に幅広いネットワークを有しています。第四北越銀行では、地域のお客さまの多様化するニーズにお応えする店舗網を構築しています。また、海外拠点として上海駐在員事務所を構え、お客さまの海外ビジネスに関するサポートを行っています。

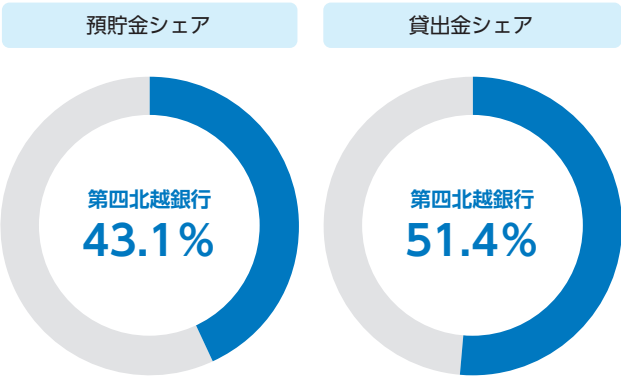
また、第四北越銀行は県内トップバンクとして、確固たるシェア（県内預貯金シェア43.1%、貸出金シェア51.4%）を有しているほか、「全国企業メインバンク動向調査（2024年）」（出所：帝国データバンク）では、メインバンク社数が約17,900社となり、メガバンク等に次ぐ全国第9位、地方銀行では第5位となっています。第四北越銀行は、国内で現存する銀行のなかで最も歴史を有する銀行であり、2023年11月に創立150周年を迎えました。地域の皆さまと永い歴史の中で構築してきた信頼関係のもと、当社グループでは多くのお客さまからお取り引きいただいています。

●第四北越銀行店舗網（2025年7月末時点）



（その他の国内店舗）北海道、富山県、愛知県、大阪府に各1拠点
※海外拠点：1カ所（上海駐在員事務所）

●新潟県内預貸金シェア



出所：月刊金融ジャーナルより作成（2024年3月末基準）

安定した財務基盤 財務資本

当社の2025年3月期総資産（連結）は約11兆円、連結ベースの当期純利益（親会社株主に帰属する当期純利益）は293億円となっており、地方銀行の中でも上位の資産規模と相応の収益力を有しています。また、自己資本比率は10.59%となり、国内基準である4%、バーゼル合意に基づく国際統一基準である8%をともに上回っており、健全性の観点から十分な水準を確保しています。また、当社および第四北越銀行は、金融庁の承認を受けて、2025年3月期からの自己資本比率の算定における信用リスクの計測手法を、これまでの「標準的手法」から「基礎的内部格付手法」に変更しました。「基礎的内部格付手法」に基づき内部管理体制の高度化に取り組み、精緻なリスク管理と最適なリスクテイクを通じた資産の積上げにより、健全な与信ポートフォリオを構築し、経営の健全性および収益性の向上を図るとともに、地域における金融・情報仲介機能を積極的に発揮することにより、地域経済の活性化に貢献していきます。

なお、格付評価機関による外部格付は、当社では日本格付研究所（JCR）が「A+」、第四北越銀行では日本格付研究所（JCR）が「A+」、ムーディーズ（Moody's）が「A3」となっています。

●外部格付の状況

	日本格付研究所（JCR）	ムーディーズ（Moody's）
第四北越フィナンシャルグループ	A+	—
第四北越銀行	A+	A3

（2025年3月末現在）

第三次中期経営計画における取り組み

2024年4月からスタートした第三次中期経営計画では、従来から取り組んできた、当社グループの経済的価値の向上に向けた「財務的課題」に加え、特定した「環境・社会課題」を加えた2つの最重要経営課題に取り組む「ダブルマテリアリティ」の考えで取り組んでいます。

当社グループ一体となって、この2つの最重要経営課題を同時に解決し、地域と当社が持続的に成長する好循環を目指すサステナビリティ経営を深化させるべく、各課題を解決するための「経営指標（KPI）」を設定して取り組んでいます。



経営指標 (KPI)	関連するSDGs
CO2排出量削減率（2013年度比）	      
サステナブルファイナンス実行額（2021年度以降の累計）	
創業・事業承継支援件数	
DX・生産性向上支援件数	
経営指標等が改善した取引先割合	
経営改善計画策定支援件数	           
デジタル顧客数※1	
グループ預かり資産残高	
販路開拓支援先数（地域商社）※2	
人材ソリューション支援件数	
女性管理職比率※3	    
グループ総取引先数※4	
連結当期純利益	  
連結OHR	
連結ROE	
連結自己資本比率	

経営指標（KPI）の目標、実績はP30をご覧ください。